

雜木ありて下に草ある處に生ずる也。初草に纏後には木の上まで紆根は枯てなし、秋實を採土に埋貯置、三四月頃取出し、灌木ありて下に草ある處へ蒔べし、肥を用ず。

〔延喜式三十七〕諸國進年料雜藥

攝津國卅四種略○中 菟絲子二升、伊勢國五十種略○中 菟絲子五斤略○下

〔武江產物志藥草〕早稻田邊 菟絲子

〔和漢三才圖會蔓草九十六〕留紅草 俗稱本名未詳

留紅草

按留紅草細莖、葉細密如杉藻、而表裏淺青色、莖端出蔓、八月枝又抽短莖、開花形如丁子樣、而紅色、長六七分可愛、花罷結角中有細子、

〔剪花翁傳三月開花〕縷紅艸 花の色極緋、莢至て少く、葩五瓣にして形ち薺に似たり、長六七步に

過ず、開花六月上旬、方日向ならんには、地一分濕りよし、方一分陰ならんには、地乾きよし、土撰ばず、肥油粕芽出し後より入べし、下種春彼岸よし、芽を出すことの甚遅きもの也、最早はえざるかと待かね、疑ひて必掘穿ち見ることなかれ、下種して十四五日目に生ずるあり、尙或は五六日或は十日廿日ばかりも、段々後れて芽生ず、又はえざるものもまゝあり、一時に出揃ふものにあらず、都て種の形ち長きものは此のごとし、午房人參の種なども亦同じ、葉の形ち眠艸の葉に似て、至て細く長一寸許なり、尤蔓物にして、竹の枝或は艸莖等を建副べし、是插花の料なり、

紫草

〔本草和名八〕紫草、一名紫丹、一名紫茱、一名藐仁謂、音亡角、一名野葵、一名紫給、一名茈蒨音辰、出、一名紫蒨雅出、爾注、和名无。良佐岐。

〔倭名類聚抄十四〕紫草 本草云、紫草、和名無、兼名菟云、一名茈蒨紫辰、今按玉篇茈卽古紫字也、

〔箋注倭名類聚抄六〕陶云、是今染紫者、蘇敬云、苗似蘭香、莖赤節青、花紫白色、而實白、圖經云、二月有花、時珍曰、種紫草、三月逐壟下子、其根頭有白毛、如茸中、王念孫曰、說文、蒨艸也、可以染留黃、